

発行元

新潟青陵大学
現代社会とメディア
編集：k



新潟古町の魅力を発信

上古町から白山公園

かつて港町として栄えた新潟市。中でも新潟駅から少し離れた古町には、風情のある建物や小径など歴史も身近に感じる場所が多く残されている。	喜館がある。港町で明治から昭和にかけて活躍した商人 齋藤喜十郎氏の邸宅の屋
一部が移築、再建された歴史ある建物。風格ある佇まいの館の中には、明治建築	の館の中には、明治建築

「新潟のしおり」では、古
ト 旅のしおりを、
町を回る際の格好として
「着物」を紹介している。
着物専門店「和^わgen」で
着物レンタルも行^いてお
り、男性用の着物もあ
る。
奥座敷、居間、露地座敷
の意匠を活かした前座敷
一体となった、本格的な茶室が
残されていると語られてい
る。伝統的建築物として国
定の登録有形文化財としても指定
されており、どの部屋も普段
は一般公開（無料）されて

喜願であって、港町で明治から昭和にかけての邸宅とした商屋、吉廣、喜十郎氏の邸宅の歴史ある建物、再建された歴史ある建物、風格ある佇まいの館の中には、明治建築の意匠を活かした前座席、奥座席、居間、露地茶室と一体となった本格的な茶室が残されていると語られている。伝統的建築物として指定されており、この部屋も普段は一般公開（無料）されているが、華道や茶道などの

教室が開かれたり、結婚式の前後になどにも使われる。庭には、天気が良ければ出ることもでき、隣接する白山公園を借景に、美しい景色を眺めることができる。春は桜、夏はハス、秋は紅葉、冬は雪景色など、四季を通じて見え方は変わるの、いつ訪れても違つた景色を楽しむことができると語られている。

また、白山公園は市民に馴染みの深い公園だが、実は明治6年に明治政府に認め

められた日本で最初の都公園の一つ。池、築山、ササ木を配したオランダ風園地。遊式庭園で、一部には当時の姿がほぼ残っていることなどから、2018年に「国の名勝」に指定されている。「新潟公式観光情報報」の「伊勢旅のしおり」では、「歴史を物語るものはこそ」となっている。池の中に「なごり立つ」は、戦前に残るシジボ塔、ラジオ普及のために作られ、白公國にも設置されました。

り、①堀と信濃川と並行しており、小路の3つにわかれており、西堀と東堀の川を貫き、この堀は信濃川を結ぶべき5本の堀が掘られた。②通町1丁が立ち並ぶ古町通と間に通りが設けられた。③小路、通りと通りの連絡通路として、通りに直交する形で小路が設けられた。

1655年、新潟湊の「明暦の町建て／移転」により、現存のまちなみの骨格が誕生した。市内の堀が整

市民参加で将来像を語る

現在も使われていて耳をす
ますと、音声が聞こえるは
ずです。」と語られてお
り、戦前からの歴史を感じ
ることができる。

古町のことを語るにあた
り、今後当町がどうなっ
ていくのか、というものを
知ることにより、さらに魅
力行うことを目的として開
催

新潟市は（仮称）古町地区将来ビジョン懇談会を開催しており、古町の将来を

されていると語られている。第一回は、令和元年10月24日（木曜）午後5

策定を踏まえ策定する、また、エリア分けエリアン

年7月新潟県、新潟市

の将来のまちづくりの方向性を示した「新潟県心の都市デザイン」（平成30

の取得のま

考えているという意図が見

これは、新潟市

催されており、事務局来

時10時から午後7時に開

ビジョン」古町地区将来

古町地区の現状につい

て説明がしました。

との将来ビジョンの方向性などについて、事務局案を説明し、委員から将来ビジョンの内容やターゲット、歴史や文化の活用について

のご意見などをいただきま
した。」と語られており、
にいがた2kmとも複合し

て考えられていた。また、
第二回は、令和元年12月
19日(木曜)午後1時か
ら午後2時50分に開催さ
れており、「事務局より、
第一回懇談会意見及び古町
地区での活動団体からのヒ

歴史をたずねる

にいがたの都心軸

「にいがた2 km」と
ばれる新潟市の都心軸
新潟駅前(万代(古町))
位置しており、業務・物
・飲食などの複合的拠点
なっている古町は、江戸
代のはじめ、堀、通り、
路の3つにわかれてお

備は、新港に北前船が寄港するように、この一帯は発展を遂げ、十返舎一九による『東海道中膝栗毛』による「新橋越後じやあんめいし八百よこせとすまじい」と書かれている。そして、新潟市の市街地

現在 NEXCO 21 が建つ場所には元々新潟銀行所から新潟県庁から新潟市役所

町ルフル」ならびに市役所
ふるまち庁舎がオープン
し、行政機能の都心回帰が
見られ、旧新潟三越のビル
の再開発計画も進められて
いる

ルメ、エンターテインメントについて、古町は近隣の「にいがた2km」の中でもグルメ、エンターテインメントが盛ん。「新潟市観光循環バス」のパンフレットに紹介されているレストラン、食事処、エンターテ

企業に選定された。日建設と大成建設のJVによる設計・施工で1993年4月に完成し、翌年5月にグランドオープンした。このNEXT21は、2017年、中央区役所が入り、2020年にオープンした。



ランチ、食事処、エンターテインメントの数には288件、古町のレストラン、食事処、中、古町のレストラン、食事処が7件と半数以上が古町のレストラン、食事処であることがわかる。和食、郷土料理から、洋服・シヨップ、さらには甘味処までもつづっている。

次に行政である。「NFE XT」2地区は、中心街である古町地区の中心というところから跡地は立地であることから跡地は再開発されるとになり、新潟交通から複数のJVが

2020年にオープンした新潟大和跡地の再開発ビル「古町ルネ」と併せて行政の中心地としての機能復活が進んでいる。

このように古町にはエンターテインメントとしての顔、グルメとしての顔、行政的な機能としての顔と様々な顔を持っていることが語られている。レトロ口なもので、さらさら魅力和可能性が埋もれている古町の再生に期待したい。

多くの顔をもつ古町



アリング結果について説明しました。また、(仮称)古町地区将来ビジョンの素案についても説明し、委員から将来ビジョンの内容やイメーजीパースについての留意点や改善点、ビジョン策定後の取り組みについて

のご意見などをいただきました。」と語られている。第三回は令和2年2月28日（金曜）午後2時から午後3時50分に開催されており、これまで委員の方々から頂いた意見を基に最終調整を行うとなっている。